

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標

- (開発創造)自分で創意工夫でき、
(和衷敬愛)おだやかで思いやりをもって人に接することができ、
(質実剛健)自分を律し社会に貢献でき、新しいことに取り組もうとする生徒を育てる。
その精神のもと、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する力の育成

2 中期的目標

1 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校

- (1) 日々の授業が、「わかりたい」「できるようになりたい」と思う生徒の思いに応え、そのことで教員への信頼をかちとる場であることから、「教科指導」が最大の「生徒指導」であるとの教員の意識改革とその自覚に裏打ちされた教育活動を展開する
- ア 授業において「ほめる・笑う・叱る」を教員は心がけ、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を図る
- イ 単元別テストや小テストなどを実施し、学期ごとに学習の定着度を確かめ、生徒のフォローを学年・教科担当者全体で行う
生徒向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を令和4年度に70%以上とする(H29 61% H30 64% R1 64%)
教職員向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を令和4年度に75%以上とする(H29 62% H30 60% R1 70%)
- (2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる
- ア 教員相互授業見学の意識の共有化を図り、教員の授業改善の結果、生徒の授業満足度を向上させる
- イ 授業環境整備PTを立ち上げ、ICT教育の推進について検討していく。そのPTのなかで、オンライン授業の構築を図っていきつつ、学校全体を巻き込みながら、ICTを利用した授業、グループ学習、発表(伝える)能力育成をめざす授業の推進
- ウ 「働き方改革」や健康管理の観点から、長時間勤務の縮減を図る必要があるため、全校一斉退庁日の設定とノークラブデーの徹底を図る
授業力向上プロジェクトを継続させ、公開授業の増加を図る
ICTを利用した授業、グループ学習の増加を図る
安全衛生委員会で「働き方改革」について検討を深める

2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校

- (1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」の育成に取り組む
- ア 挨拶を通して、人間関係の構築のきっかけとさせ、また遅刻者数を減らす
- イ 生徒会活動の活性化、部活動の充実化を図る
- ウ 国際交流を通して刺激を受け学習意欲を高める
遅刻者数の減少を図る(H29 2962 H30 2894 R1 2386)
生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定的意見を令和4年度に80%以上とする(H29 74% H30 75% R1 75%)
部活動加入率を令和5年度に70%以上とする(H29 59% H30 60% R1 62%)
ニュージーランドと台湾、韓国の姉妹校への語学研修派遣及び相互交流を継続
卒業生の国際交流：ニュージーランドの姉妹校に卒業生を日本語アシスタントとして派遣を継続
英語アシスタントの受入れ：ニュージーランドの姉妹校から卒業生を英語のアシスタントとして受け入れを継続
地域の国際関連施設と語学を通じた連携を継続
生徒向け学校教育自己診断における国際交流関連の肯定率90%以上を維持する(H29 90% H30 95% R1 94%)
- (2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく
- ア 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる
- イ 生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立して、職業観を育成し、目標達成に最後まで努力する態度を育む
- ウ 進学講習を組織的に実施する
外部指標のある教材や模擬試験なども活用し、進学希望者に自己の学習定着度を見つめさせ、進学への意識を高めさせていく
スタディマラソン・進路夏の陣、冬の陣・センターチャレンジなどを独自の取組みを継続させ、大学進学者を増加させる
学校斡旋の就職内定率100%を維持する
- (3) 安全で安心な学校づくりを行う
- ア 人権教育推進委員会、及び教育相談委員会の充実(いじめの未然防止と早期発見、ケース会議の適宜開催)
- イ 円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるため、探求やHRの充実を図る。
- ウ 支援の必要な生徒とその合理的配慮について実態の把握と教員の共通理解を促進、支援の充実を図る
安全で安心な学校づくりを行うための教職員研修を継続
要支援生徒の情報共有に向けたケース会議や教員研修の充実

3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校

- (1) 地域の信頼に応えることのできる学校であり続ける
- ア 【学校を外に開く】地元の学校や地域施設等との交流を継続する
- イ 【学校を外に開く】中学校訪問や中高連絡会において、生徒の出身中学校との連携を強化する
- ウ 【学校を外に開く】住吉区との連携を継続し、教職員・生徒ともに防災等に対する危機管理意識の更なる深化をはかる
- エ 【学校を内に開く】学校説明会などで本校の良さを知ってもらう取組みを実施する
- オ 【学校を内に開く】「ご来校(お電話)いただきありがとうございました」の姿勢を維持する
学校ホームページを使った情報発信やメールマガジンの発行を継続
学校説明会で生徒が活躍する場面の充実
保護者向け学校教育自己診断における学校評価関連の肯定的意見90%を維持する(H29 92% H30 89% R1 94%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒回答 高評価 (3.0以上) ・ICTを活用した授業3.13 ・部活動の活発さ3.07 ・入学してよかった3.02 低評価 (2.5未満) ・HPをよく見る1.96 ・施設や設備の充実2.27</p> <p>教職員回答 高評価 (3.0以上) ・HPやメルマガなどで外部に情報発信3.24 ・生徒の人権尊重3.08 ・学校行事を工夫改善3.07 低評価 (2.5未満) ・施設や設備の充実2.39 ・現行教育課程2.41</p> <p>保護者回答 高評価 (3.0以上) ・入学させてよかった3.20 体育祭の工夫3.02 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている3.01 低評価 (2.5未満) ・施設や設備の充実2.42</p> <p>分析 ICTを活用する教員が増えており、生徒もその取組みを受け入れている。ただ、その手段を目的にせず、より一層の授業力向上を図ることが大切である。そのためには、授業力向上PTの充実やセンター研修への積極的な参加をさせていきたい。 施設や設備の古さがあり、全ての回答者から低評価となっている。教育庁にも整備を検討していただくとともに、学校としては、日々の安全点検や清掃をこまめに行い、生徒の安全を第一に考えていきたい。</p>	<p>第1回(8月21日) スタディマラソンにおいて、卒業生が来てくれることは素晴らしいことである。卒業しても愛着のある学校であるということだろう。 コロナ禍で、疲労感のある先生方も多いと思う。労いの言葉をかけておいてほしい。 進路実績については、盛り返しているのはよいことだし、新しい標準服は生徒に大変評判がよいと聞いている。</p> <p>第2回(12月4日) コロナについては、今やどの学校において、罹患者が出てもおかしくない状況であり、厳しい状況が続くと思う。教職員の皆様には、通常より大きな負荷がかかっていると思うが、引き続き頑張ってもらいたい。 学校のICT化については、小・中学校でも苦心しているところ。本校でICT化が進んだのはよいことである。ただ、さまざまな不安要素も想定されるので、学習環境整備も含め、教育庁から人材や経済的支援などがもっと必要だと思う。 コロナ禍であるからこそ、本校の特徴である国際交流について、web会議システムなどを用いて積極的に行ってもらいたい。 地域の防災訓練等でお世話になった。今後も引き続きよろしくお願ひしたい。</p> <p>第3回(1月28日) コロナ禍の苦しい状況の中で、生徒の「授業関連」の肯定的評価が目標を上回ったのは、先生方の生徒に向けた思いに根差した努力の賜物だと思う。教員による「授業関連」の肯定率は下がっているが、コロナ禍の不自由な状況の中では上がると逆におかしいと思う。むしろ、授業アンケート「生徒取組」の大幅増は、その思いが生徒に十分通じた結果ではないだろうか。「国際交流関連」は昨年度94%から今年度63%と大幅減となっているが、従来の交流がコロナにより全て不可能な状況から考えて、評価()は妥当です。むしろ、できる限りの取組みを行っており、高く評価できると考える。 遅刻については、家庭との連携で少しでも減らせればよいと、保護者として思う。 令和3年度の学校経営計画については、ご承認いただいた。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 教員一人ひとりが、教員相互に高めあう学校</p>	<p>(1) 日々の授業が、「わかりたい」「できるようになりたい」と思う生徒の思いに応え、そのことで教員への信頼を勝ちとる場であることから、「教科指導」が最大の「生徒指導」であるとの教員の意識改革とその自覚に裏打ちされた教育活動を展開する</p> <p>(2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる</p>	<p>(1) ・単元が終わるごとに、科目担当者同士で授業の進度や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有する。 ・生徒の学習活動を肯定的に評価するとともに、興味関心を引き出すためICT機器等を活用した教材や指導法を研究する</p> <p>(2) ・授業力向上プロジェクトを継続させ、「褒めあげシート」を活用し、授業改善に取り組む ・教員の健康管理の観点から、時間外在校等時間の多い教員に個別指導を行う</p>	<p>(1) ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見を65% (令和元年度64%)</p> <p>・授業アンケート「2生徒取組」の学校平均を2.90(令和元年度2.86)</p> <p>(2) ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見を71% (令和元年度70%)</p> <p>・授業アンケート「89生徒意識」の学校平均を3.06(令和元年度3.05)</p> <p>・時間外在校時間の多い教員に指導したか</p>	<p>(1) ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定率69% コロナ禍で従来の授業ペースが保てないなか、教員がICTの活用などの工夫を凝らした授業を実施()</p> <p>・授業アンケート「2生徒取組」の学校平均3.43 上記と同様、生徒も限られた時間のなかで真剣に取り組んだ証である()</p> <p>(2) ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定率69% 各教科などで指導内容や進度についての点検や検討をする機会が例年に比べ減ってしまった()</p> <p>・授業アンケート「89生徒意識」の学校平均3.06 更に生徒が興味関心を持てるように、教員の授業力向上を図ることが大切である()</p> <p>・毎月、時間外在校等時間の多い教員に対し、文書による啓発、声かけを行った。また、特に時間数が多い教員に関しては、産業医の面談に参加するよう勧奨し、受診させた()</p>

府立阪南高等学校

<p>2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校</p>	<p>(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」の育成に取り組む</p> <p>(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく</p> <p>(3) 安全で安心な学校づくりを行う</p>	<p>(1) ・遅刻者数を減らす ・部活動への入部を奨励し、生徒の自立心を育む ・国際交流の機会を充実させる</p> <p>(2) ・新学習指導要領に向けて、コースと選択科目の効果的な運用を検討する ・外部指標教材を活用し、学力の向上を図る ・進路希望を実現するために、最後まであきらめない意識を持たせる</p> <p>(3) ・学年団、各分掌で生徒情報を共有する ・教育相談委員会を充実させ、SCとともに、生徒が相談しやすい環境作りに努める ・人権教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する</p>	<p>(1) ・遅刻者数 3000 名以下を維持 (令和元年度 2386 名) ・部活動入部率 65% (令和1年度 62%) ・生徒向け学校教育自己診断「国際交流関連」の肯定率 90%以上を維持 (令和元年度 94%)</p> <p>(2) ・新学習指導要領におけるカリキュラムの骨格は作られたか ・4年制大学希望者の現役合格者を前年度以上とする (令和元年度 73%) ・学校幹旋の就職決定率 100% (令和元年度 100%) ・生徒向け学校教育自己診断「キャリア教育関連」の肯定的意見を 75%。 (令和元年度 74%)</p> <p>(3) ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見を 60%。 (令和元年度 59%) ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定的意見を 75% (令和元年度 74%)</p>	<p>(1) ・遅刻者数 2290 名 () ・部活動入部率 65% () ・生徒向け学校教育自己診断「国際交流関連」肯定率 63% コロナ禍のなか、海外留学や留学生受け入れは皆無であった。ただ、「EUがあなたの学校にやってくる」やOFIXの「国際理解教育サポータ派遣事業」、ISAの「オールイングリッシュ異文化体験」等、現状で可能な行事は学校全体で取り組んだ ()</p> <p>(2) ・新学習指導要領におけるカリキュラムは、予想以上に早く構築できた () ・4年制大学希望者の現役合格率 88% () ・学校幹旋の就職希望者は、今年度はなかったため (-) ・生徒向け学校教育自己診断「キャリア教育関連」肯定率 76% ()</p> <p>(3) ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見 60% () ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定率 77% ()</p>
<p>3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校</p>	<p>(1) 地域の信頼に応えることのできる学校であり続ける</p>	<p>(1) 【学校を外に開く】 ・部活動や国際交流、学校行事等を通じて、地元 の学校や地域の施設等と交流を図る ・中学校、塾等の訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する</p> <p>【学校を内に開く】 ・体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取り組みを実施し、教員のみならず生徒も参加させる ・「ご来校(お電話)いただきありがとうございました」の姿勢を維持する</p>	<p>(1) 【学校を外に開く】 ・交流は活発であったか ・教職員向け学校教育自己診断「広報関連」の肯定的意見を 70% (令和元年度 69%)</p> <p>【学校を内に開く】 ・体験入学や学校説明会において、生徒会役員やクラブ員などが中心となって運営できたか ・保護者向け学校教育自己診断「阪南高校に入学させてよかった」の肯定的意見 90%以上を維持する (令和元年度 94%)</p>	<p>(1) ・地域の学校や施設との交流はできなかった。NZからのアシスタントティチャーも来日できなかったこと等もあり、国際交流を通してのやり取りもなかったが、オンラインを用いた交流を年度内に取り組んだ。() ・教職員向け学校教育自己診断「広報関連」の肯定率 81% フェイストUFFフェイスの交流、発信等ができなかった分、広報活動はWEBなどで、例年以上に力を入れて、阪南高校の良さを知らしめた () ・体験入学や学校説明会は、昨今の状況から鑑みて、実施できなかった。ただ、個別に見学を希望する中学生や保護者が多く、その方々には、個別に来校してもらい、約 50 名には説明や校内見学を実施した () ・保護者向け学校教育自己診断「阪南高校に入学させてよかった」の肯定率 91% ()</p>